

たくまさし 通信(三豊市版)

第18号

2017年(平成29年)10月発行

住民の皆様
お気軽にご意見を
お聞かせください。



志保の会

【連絡先】

〒769-1507 三豊市豊中町岡本270

0875-56-6113

0875-62-5914



[Blog] www.8108.jp

「たくまさしマニフェスト・サイクル」

三豊市の次世代ビジョン

3期目をふり返りその実績を検証します。

1期4年の市議会議員の任期は、実に足早に過ぎていくものです。4年前のこの時期に、私の2期目の4年間を振り返ったマニフェスト・サイクルを掲載しました。来年の平成30年(2018年)1月には、第4回の三豊市長選挙と市議会議員選挙が行われます。そこで、この時点で平成26年に行われた、第3回三豊市議会議員選挙で示していた、私のマニフェストである「三豊市の次世代ビジョン、第3ステージへ!」をふり返ることとします。

【教育】施策／01

『自学精神の向上に学校図書館の充実と計画を!』

授業で学ぶことにプラスして自ら学ぶ心〓自学精神を付ける

ことは無限の力に。統合校へ充実した図書館導入で自習環境の充実を実現。新設校では設計段階から組み込み、子どもたちの学ぶ力の向上を応援。

⇒ 山本小学校、財田小学校に学校図書館を整備するとともに学校司書を配置。さらに、国の助成制度を活用して、順に既存小中学校にも学校司書を配置した。

三豊市の次世代ビジョン、
第3ステージへ!

Stage 1 Stage 2 Stage 3

5つの施策
この地で
生き育て伝える
3期目のビジョンとして
さらに進め

施策 01
自学精神の向上に学校図書館の充実と計画を!
授業で学ぶことにプラスして自ら学ぶ心〓自学精神を付けることは無限の力に。統合校へ充実した図書館導入で自習環境の充実を実現。新設校では設計段階から組み込み、子どもたちの学ぶ力の向上を応援。

施策 02
子どもの基本力を高める支援拠点の拡充へ!
幼児教育の支援拠点として「みよKidsスタジオ」を開設。幼少期の知育、体育、読書の基礎力を高め、若いママさんの育児の悩み解消も目指した共に育つ〓育てるサポート機能。また児童の応がりを重視。

施策 03
地域医療機関の高密度化とネットワークの強化へ!
全診療科と西条川病院を機能統合。地域医療の中核として、特に小児科・産科を充実する。さらに他の医療機関とのネットワーク化も強化し、医療〓介護〓保健にわたる地域包括ケア体制の構築を図る。

施策 04
市民力で公共施設の新たな価値の創世!
市民の手で、公共施設の運営的な価値を引き出す。指定管理制度や民間委託などさまざまな利便と財務健全化を図る。

施策 05
世界を活躍した国際力の教育体制と雇用の場を!
グローバル化が加速する我が国の環境では、高い資質や自己主張にも高い国際力が必須。外国人講師制度を実施させ、育ちの国際人育成の強化。また、それとともに、若者雇用の場の創出を図り、世界へ打って出る地元企業づくりを。

【子育て支援】施策／02

『子どもの基本力を高める支援拠点の拡充へ！』

幼児教育の支援拠点として、みとよKidsスタジオを実現。幼児期の知育、体育、徳育の基礎力を高め、若いママさんの育児の悩み解消も目指した、共に育つ、育てるサポート機能、また集団の広がり支援。

⇒ みとよKidsスタジオの活動充実及び継続のために、県・



市社会教育委員会に対して支援

施策の創設を働きかけている。新たに、育児で相談する機会に恵まれない保護者の相談や、発達障害児とその関係者の育児の悩みに早期に寄り添うことを活動目的とする、NPO法人西讃教育支援ネットワークの設立に協力するとともに、市子育て支援課と連携した相談活動を実現した。

【医療】施策／03

『地域医療機関の高度化とネットワークの強化へ！』

永康病院と西香川病院を機能統合、地域医療の中核として、特に小児科・産科を充実する。さらに他の医療機関とのネットワーク化も強化し、医療・介護・保健にわたる地域包括ケア体制の構築を図る。

⇒ 市立2病院の機能統合やネットワーク化等は、議会内に設置した永康病院調査特別委員会の委員長として、議会としてのいくつかの方向性を検討し提案する。

【施設】施策／04

『市民力で公共施設の新たな価値を創生！』

市民の手で、公共施設の潜在的な価値を引き出す。指定管理制度や民間委託などでさらなる利便と財務健全化を図る。

⇒ 不動産の滝カントリーパーク及び豊中コミュニティセンターをまちなづくり推進隊豊中に指定管理委託したり、比地大駅前公園を民間に貸与することで、新たな魅力づくりによって地域のコミュニティ拠点となりつつある。



【産業・雇用】施策／05

『世界を見据えた語学力の教育体制と雇用の場を！』

三豊ライオンズクラブの主催するみとよグローバル・イングリッシュスピーチ・コンテストを会長として企画・運営し、英会話を学ぶ小中学生の発表の場を実現した。残念ながら、2016年1月開催の1回のみで、事業の継続を模索中である。今後、地元企業を巻き込み協力を得ることで、若者の雇用に結びつける。



4年という年月は長くもあり短くもあります。任期が終わったからといって、放り出すわけにはいきません。引き続き取り組んでいきます。

地域資源を活用した アンチコンパクトシティ実現のために 何が必要になるのか。

平成29年6月議会一般質問報告・1

質問

市は、アンチコンパクトシティを表明し、地域内分権として市民力による独自のまちづくり制度を推進している。一方、少子高齢・人口減少の中、市民力によるマンパワーの限界が予測され、市民の誰もが安全安心に生活できる環境を整える仕掛けを編み出していかなくてはならない。

全地球測位システムの核となる準天頂衛星「みちびき」が、2018年春に本格運用が始まる。地域資源ともいえる香川高専託間キャンパスには、地域と連携し技術開発に取り組む『みらい技術教

育センター』がある。アンチコンパクトシティ実現のため、コミュニティバスのデマンド化や、高齢者の見守りシステムなどの共同研究開発の考えを問う。

答弁

アンチコンパクトシティの原点は、集中ではなく分散であり、依存ではなく自立だ。今後、マンパワーに限界が予測される。その対応として、コンパクトシティではなく常に足元から考え、足元からつくり上げて、自立しつつ連携することが重要だと考える。

提案の香川高専託間キャンパスとの連携は、地域連帯の可能性

がある。同校との共同技術開発は、総務省、NTTドコモとともに、「みちびき」によるGPS機能を利用した高感度呼吸センサーと加速度センサーを用いて、行動モニタリングによる高齢者見守りシステムや、志々島での健康状態を感じし送信する実証実

験をもつて、共同研究する予定だ。

香川高専託間キャンパスとは連携協力会議を設けており、十分に連携協力し進める。



今の子どもたちが、今学ばべきこと。

新学習指導要領に

どのように取り組むのか。

平成29年6月議会一般質問報告・2

質問

2020年から始まる新学習

指導要領による学習は、これまで

の「詰め込みかゆとりか」といつ

た二項対立ではなく、これまで同

様の学ぶ内容は減らさず、これま

での何を学ぶかに加えて、どのよ

うに学ぶのか、何ができるように

なるのかといった視点で見直すよ

うだ。グローバル化、人口減少が

ますます進む2030年代に生

きる今の子どもたちが、今学ばべ

きものを示し、「学力」だけでは

なく「考える力」を育むためだ。

その方法として、アクティブ

ラーニングという学習方法をすべ

ての教科に取り入れるとともに、
小学校での英語の教科化やプロ
グラミング教育の必修化を取り
入れることとしている。

そこで、新学習指導要領を文部
科学省が定め、進めていこうとす
る社会背景について聞くととも
に、3年に満たない先に迫る新学
習指導要領の実施に対し、市教育
委員会としてどのように取り組
んでいくのかを問う。

答弁 教育長

社会背景は、グローバル化の進
展や人工知能の飛躍的な進化な
ど、社会の加速度的な変化を受け
止め、将来の予測が難しい社会の

中でも、伝統や文化に立脚した広
い視野を持ち、志高く未来をつく
り出していくために必要な資質
や能力を、子どもたち一人ひと
りに確実に育む学校教育を実現す
ることが求められているためだ。

新学習指導要領で求めようと
する学力は、子どもたちが知って
いることや、できることを使って、
どのように社会や世界とかわか
り、よりよい人生を送るかまで追
い求めようとする総合的な能力
だ。アクティブラーニングという
キーワードは、現在は、**主体的・対
話的で深い学び**という表現で教
育現場に発信されている。教育委
員会では、対話の活動を意識しな
がら授業改善するため、独自に
リーフレットを活用しながら、全
学校に方針を示している。

小学校の英語の教科化は、学校
現場にとっては喫緊の大きな課題
だ。現在、山本小学校に小学校外
国語教育研究推進モデル地域と
して県教委から指定を受けてお

り、2020年の全面実施に向
け、パイロット的な取り組みをし
ている。

プログラミング教育について
は、専門的知識を持った教員の育
成のため、本年度、ICT支援員
を配置し、必要に応じて各学校に
派遣している。また、現在、7名か
らなるICT整備検討委員会を
設立し、情報環境や教員のスキル
アップを図る手法について協議し
ている。

再質問

少子高齢・人口減少社会が世界
で最も早く進む日本において、プ
ログラミング教育で労働生産性
を格段に向上するとともに、**答え
の用意されていない問題に対し
て答を導き出す力**によって、未来
社会をデザインする可能性を秘
めていると考える。新しく教育長
に就任されたので、教育長として
の考えをお聞きしたいと思う。

一番大切なのは、プログラミング教育を推進していく前提として必要なものが、

言語能力 思考力

論理的に考えていく力

などの重要性だ。これらの資質、能力は、全ての教育の基盤として、長年重要視されてきたものだ。新学習指導要領の全面实施までの間、各教科でこれまで以上に授業の充実を図っていきたい。加えて、目的に応じて必要な情報を見出すとか、情報を基にして深く理解して考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したりするといった、新たな学びの場も設定していく必要があると思っている。

ICT環境の整備を行いながら、プログラミング教育が初期段階であるため、国や関係機関等の情報を注視しつつ、柔軟に対応をしていく。

教育会も大きな転換期に入っており、着実に制度とするとともに、子どもの力としていくことが私たちの仕事だと思っている。

▼ICTとは

「インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー」の略で「情報通信技術」といわれる。

▼プログラミング教育とは

算数や理科など既存の教科の中で、プログラミングを取り入れた学習。



豊中幼稚園スクールバス利用の現状。 市民ニーズの変化に対応する 送迎環境の整備が求められている。

平成29年6月議会一般質問報告・3

質問

豊中幼稚園は、旧豊中町にあつた5つの幼稚園を統合し、開園して15年になる。定員は340人で、現在、270人の幼児が通園する稀に見る大規模施設だ。開園当時はスクールバスによる送迎が主だったが、自家用車による通勤、退社途中の送迎が多くなっており、保護者の生活スタイルが激変し、バス利用者は50名に満たない状況だ。

天気や時間帯によつては、前の市道が渋滞することもしばしばだ。この現状は、時間に迫られる保護者と、交通に支障をきたす

ことによる影響を心配する先生方のストレスになっていることも考えられ、子どもの教育と保育環境に少なからず影響しているのではないかと危惧している。

一方では、市は幼稚園のこども園化を計画しているが、豊中幼稚園は既に形態として実質子ども園であり、市が進めようとする子ども園のモデル園ともなりうる位置づけにあると考えられる。

ところが現状のままで放置しては、平成32年度から全市でスタートしようとしている市のこども園化に支障を及ぼしかねないとい心配している。言い換えれば、社会状況が変わることによ

る、市民のニーズの変化に施設整備が追い付いていないということだ。

豊中幼稚園の駐車場整備や職員駐車場の確保による、送迎環境の改善について問う。

答弁 教育長

スクールバスの利用実績は、平成29年6月時点で18%だ。このことから、自家用車による保護者の送迎が多く、混雑ぶりが推察される。今後、スクールバスの耐用年数や運転手の確保難も考えられ、市内の幼稚園のスクールバスの在り方を検討する時期となっていると考えている。同時に、保

護者の送迎時の混雑の緩和のために、駐車場の整備についても検討する必要がある。

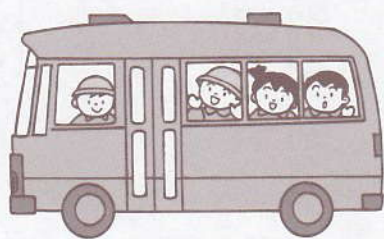
まず、職員駐車場として、保育

所、幼稚園周辺で場所を調査した

い。さらに、子どもたち、保護者、先生にとつてよりよい環境に努めたいと考えており、こども園化を進める一つのステップにもなるのではないかと考えている。

大規模幼稚園であることから、年間を通し計画している行事で駐車場の確保が困難であるため、意図せざるトラブルが発生することもあり、現場の努力では対応しにくいこともあると理解している。

駐車場整備に止まらず、子どもが行きたい、保護者が行かせたい、職員がやりがいがある環境整備を考えていくのが、我々の仕事だ。大規模のメリットとデメリットを見極めながら、今後検討していきたいと思う。



会派清風会

東北編

視察研修報告

青森県おいらせ町

観光農園を拠点に、地域を元気にしたい
誰もが活躍できる社会の実現を目指す。



観光農園「アグリ」の里おいらせ」の経営及び運営は、株式会社「アグリ」の里おいらせ」と「社会福祉法人誠友会」の2法人連携で行われている。高齢者福祉と障がい者就労継続支援の2つの事業を手掛ける苦米地（とまべち）義之氏が、高齢者も障がい者も、地域に暮らす誰もが活躍できる場をつくることで地域を元気にしたいとの思いで、10年ほど前に開園した。

の求める社会づくりの実践を行っているところにある。それは、「アグリ」の里おいらせ」の想いをまとめた言葉で表されている。

《観光農園アグリ」の里おいらせは「農業・地域・福祉・観光」を繋ぎ合わせた事業を通して、子どもからお年寄りまで、障害の有無にかかわらず「共に学び、共に活躍、交流、体験」できる場を創造します。》に集約されている。

事業の目的は

●観光農園全体が障がい者の働く場であり実践、体験の場であること

2 法人連携による経営は、国・県の補助金制度を最大限活用するため有効だ。公的助成金を事業拡大に活用できるのは、この国

●行政、民間団体、地域との連携、

協働による人材育成の支援をすること

●「食と農」を通して食文化の伝承、生きがい、健康づくりを推進すること

●就労の場につながるよう農業と福祉の新たな担い手の人材育成に取り組むこと

●地域との協働、連携により地域の活性化を目指すことによって、地域を元気にし誰もが活躍できる社会の実現を目指すことであり、就労継続支援事業所では、現在、正規雇用者、パート含む60名程を雇用している。

これまで、農業、観光、地域、福祉をつなぎ合わせた事業展開を行ってきた。そのキーワードは『新・珍・楽・懐』+『食・農・福・医』によって、地域や団体との連携を行ってきた。その結果、年間入り込み数は順調に推移し43万人を超える集客となっており、事業目的の事業化によって、「アグリのリおいらせ」の想いは現実のものとなっている。

今後の展開と展望については三つある。一つは、地域全体における農と福祉の連携強化だ。二つは、障がい者の新たな就労場の創出だ。そして三つは、誰でも「活躍・交流体験」できる道の駅構想だ。農・福・地域・観光・教育の連携による、官民福学連携で交流情報発信の拠点づくりを考えている。それが新たな観光拠点施設となるからだ。

おいらせ町のある地域は、青森県の中でも降雪の少ない地域で、ハウスによる施設栽培に適した場所です。イチゴ栽培に始まり、マンゴーやバナナ、パッションフルーツ、ドラゴンフルーツなど、北の国に南国をつくっています。その発想の根底には、三沢市の米軍基地の需要の可能性をしたかに狙っていたのではないのでしょうか。その意外性には引き付けられているのだと思います。苦米地さんは、若かりし頃全国に放浪の旅に出かけることで、人が生活し生きることの本質を感性として身に着けたのだと思

います。「若い者には旅をさせろ」とは言い古された言葉ですが、地域を支え再興する人材を輩出す

る地域とは、そのような空気感なのでしよう。



山形県酒田市

**国の法定化よりも早く空家対策に係る条例を制定
現実に対して二つ、丁寧に施策を打つ。**

山形県酒田市は、最上川の河口にあり、古くから日本海沿岸の要港として発達した港町だ。平成17

年、酒田市、八幡町、松山町、平田町が新設合併し、現在人口約10

5,000人、面積602.74km²の新「酒田市」が誕生した。平成27

年10月に『酒田市まちひとしご』と創生総合戦略』を策定し、全市を挙げて取り組んでいる。

酒田市では、国の空家対策特別措置法制定より早い、平成24年3月に空家対策に係る条例を制定している。

条例制定を必要とした背景は、

管理不十分な空き地・空き家に関する市民からの相談件数が年々増加していた。個人の財産権と周辺住民の安全、住環境の保全をどう調整するかという問題があった。しかし、将来的に大きな問題となることが予測されたため、制度整備することとした。

条例制定による空き家・空き地の適正管理と利活用効果を増すために、いくつかの事業を展開している。

●平成24年度より空き家所有者のための啓発パンフレットを全ての固定資産税納税者へ郵送（固定資産税納税通知書へ同封）し、啓発PRを図っている。

●空き家等ネットワーク協議会を平成25年に設立。不動産業者、建設業協会、司法書士会、市の4者で構成し、無料相談会等を実施している。

●自治会空き家等見守り隊を設

立。自治会と空き家所有者との良好な関係を築くため、平成25年度2自治会、平成26年度3自治会でモデル事業を実施している。

空き家対策は、移住政策（人口減少対策）とも連携している。

政策部関係の施策として、

1. 空き家改修費補助金

2. 移住定住者住宅取得費補助金

建設部関係の施策として、

3. 住リフォーム総合支援事業

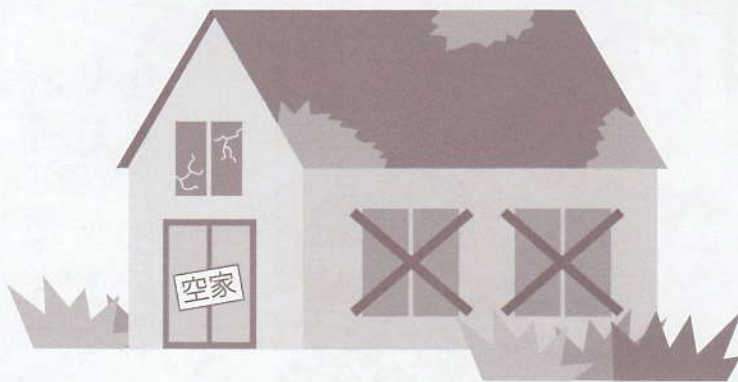
4. 住宅改善支援事業

ほかに

5. 移住希望者への空き家紹介があり、政策推進課とまちづくり推進課が連携し『移住相談員』を置き、所有者が遠方に居住しており内部の荷物が片づけられない等の事情がある空き家を、移住定住者に市が紹介するもの。

市の積極的な取り組みがあったとしても空き家等の件数は増加傾

向にあります。何もしなければ手の付けられない状況となるのは確実です。人が住んでいたという事実をたちまちに消し去ることはできません。突きつけられた現実に対し、二つ三つに施策を打っていくより他になく、飽くなき対策の連続であることを実感した研修でした。



www.8108.jp

「人々が活々と交流し、支え合い、安心して暮らせるまち」
貴方は、そんなまちに暮らしてみたいと思いませんか？
このサイトは、そのような理想のまちを地域住民自らの力で創り上げようと言うサイトです。

志保の会

【連絡先】〒769-1507 三豊市豊中町岡本270
TEL 0875-56-6113 FAX 0875-62-5914
E-mail info@8108.jp
ブログ: [たくま まさしの日記帳](#)

